

## 令和6年度第1回宗像市スポーツ推進審議会 議事録（要旨）

日 時	令和6年7月2日（火）   7:55～19:35					
会 場	宗像市役所 201会議室					
出席者	委 員	■市丸	■大賀	■釜瀬	■河野	■末永
		■西村	■野口	■村山	□石松（欠席）	
	事務局	■大塚	■上田	■吉丸	■水田	
		■松水	■福本			

### 【開会】

大塚課長： 定刻となったので、令和6年度第1回宗像市スポーツ推進審議会を開会する。

この審議会は、宗像市スポーツ推進審議会条例第6条第2号の規定により、委員の半数以上の出席が成立条件となっている。本日は委員総数9人のうち、ご出席の委員数8人で、本日の審議会が成立することを報告する。

議事に入る前に資料の確認をする。

（資料の確認）

これからの進行を市丸会長にお願いします。

#### 1 開会あいさつ

市丸会長あいさつ

#### 2 委嘱状の交付について

市丸会長： 委嘱状の交付について、事務局よりお願いします。

大塚課長： 4月1日付けの人事異動に伴い、これまで委員を務めていただいていた、自由ヶ丘南小学校校長の青野委員が退任となった。後任委員として、地島小学校校長の河野委員が令和6年5月23日付けて委嘱されたため、委嘱状を交付させていただく。

（委嘱状の交付）

#### 3 委員及び市職員の紹介について（自己紹介）

市丸会長： 委員の交代もあったため、改めて委員と市職員より自己紹介をお願いします。

（出席者自己紹介）

#### 4 議事録（議事要旨）署名委員の指名について

市丸会長： 議事録署名委員の選出について、今回の議事録署名委員を2人お願いする。名簿順に指名する。前は、村山委員と青野委員にお引き受けいただいたので、今回は、大賀委員と釜瀬委員にお引き受けいただきたいと思う。

（両委員が承認）

#### 5 第2期宗像市スポーツ推進計画について（概要説明）

市丸会長： 「第2期宗像市スポーツ推進計画について」事務局より説明をお願いします。

上田係長： 資料1をご覧ください。大きな目標は、「スポーツで笑顔・元気あふれるまちづくり」を目指すことである。それに向けて4つのチャレンジ目標を掲げており、このチャレンジ目標を達成するために、8つの施策を設けている。資料2はその概要版である。お時間のあるときに目を通していただきたい。なお、説明が必要であれば随時対応させていただく。

#### 6 第2期宗像市スポーツ推進計画の進捗状況について

市丸会長： 「第2期宗像市スポーツ推進計画の進捗状況について」事務局より説明をお願いします。

上田係長： 資料3をご覧ください。令和6年3月に行われた審議会で配布した資料である。第2期スポーツ推進計画では8つの施策があり、この施策の取組状況と次年度の方向性を毎年、審議会で報告し、委員の皆様からご意見をいただいている状況である。報告内容の詳細については、お時間のあるときに資料をご覧ください。

#### 7 第3期宗像市スポーツ推進計画策定について

市丸会長： 「第3期宗像市スポーツ推進計画策定について」事務局より説明をお願いします。

上田係長： 資料4をご覧ください。スポーツ推進計画には上位計画として、宗像市総合計画、健康むなかた21などの関連計画がある。スポーツ推進計画は、スポーツ基本法第10条に基づく地方スポーツ推進計画で、宗像市総合計画の個別計画という位置づけである。計画の期間については、基本、5年で見直しを行っており、現在は、第2期計画の期間中である。この第2期計画が今年度で終了するため、現在、令和7年度から令和11年度までを期間とする第3期計画の策定を進めている状況である。

次のページをご覧ください。先ほどの説明と重複するが、現在期間中の第2期計画では、

4つのチャレンジ目標を掲げ、「スポーツで笑顔・元気あふれるまちづくり」を目指しているところである。

次のページをご覧いただきたい。こちらは第3期計画の策定の考え方及び方針等である。計画策定の考え方については、令和6年度で第2期の計画が終了するため、令和7年度からの計画を策定することである。計画策定の方針としては、「健康むなかた21」や「障がい者計画」、「学校教育基本計画」など、関連計画との整合性を図っていく。また、市民へアンケート実施し、その結果を踏まえて策定していく。さらに、本市の現状をできる限り見える化し、5年後に達成したい数値目標を掲げていきたいと考えている。計画策定の体制については、事務局で原案を作成し、庁議を経て、最終的に教育委員会において決議いただく流れとなる。その間、原案については、スポーツ推進審議会に諮問し答申いただく。市民に関しては、スポーツ関係団体等へのヒアリングの実施、市民全体に対しての無作為抽出による市民アンケートの実施、原案がまとまった段階でのパブリックコメントの実施を行う。

次のページをご覧いただきたい。第3期計画の策定スケジュールについてである。令和5年度は、8月に審議会へ諮問、12月に第2期計画からの振り返りを行った。1月には、市民アンケートの内容説明を行い、そこでいただいた意見を反映させて、2月に市民アンケートを実施した。その後、3月に市民アンケートの集計結果を報告させていただいた。令和6年度については、今回が第1回目であり、次の5年間で取り組むべき課題について協議する予定である。今後については、8月に目標値の協議、10月に基本理念、施策の柱について協議していきたいと考えている。

資料5をご覧いただきたい。こちらは、第2期計画に基づいて、これまで行ってきた取り組みと今後の課題についてまとめた資料となっている。ざっくりとした課題としては、スポーツ推進のための基盤体制の強化、関係機関との連携強化、情報発信強化などが挙げられる。

資料6をご覧いただきたい。2月に行った市民アンケートの結果である。こちらは分析結果を含めて後ほど説明させていただく。

資料7をご覧いただきたい。こちらは、令和6年3月の審議会でも説明した資料であり、宗像市の現状の数値をまとめている。

次第7についての説明は以上となる。

市丸会長：事務局の説明に、質問等はないか。

大賀委員：資料4の3ページ目に「総合計画に包含となる場合あり」との記載があるが、これはどういうことが想定されるか。また、総合計画策定のスケジュールについても教えていただきたい。

上田係長：総合計画への包含については、庁内での協議を重ねた結果、総合計画には載せるこ

とができない項目があるため、包含しないとの結論に至った。そのため、スポーツ推進計画は独立した個別の計画として策定を進めている。

大塚課長： 総合計画については、スポーツ推進計画と同じく、来年の3月に完成予定である。

大賀委員： 学校教育基本計画も同じスケジュールか。

大塚課長： そこまでは把握できていない。

市丸会長： その他に質問等はないか。

## 8 協議事項

### (1) スポーツ推進計画の策定について

#### ・宗像市の現状の課題と目標について

市丸会長： 続いて、協議事項に移る。「スポーツ推進計画の策定について」の「宗像市の現状の課題と目標について」事務局より説明をお願いする。

福本： これまで、市民アンケートの集計、分析（資料6）や宗像市の現状の整理（資料7）を行ってきた。今回の内容は、宗像市の現状の課題と目標ということで、このデータを基に、宗像市の現状においてどのような課題があるのかを整理した。様々な課題を洗い出した中で、これらの整理の方法として、5つの項目にグループ分けを行った。そこに1項目加えて、資料のとおり6項目をベースに説明させていただく。

#### 【1. 健康づくり】

現状として、宗像市の週1回以上運動している割合は、前回（H30）のアンケート結果と比べると増加傾向にあるが、国と比べて低い状況にあることがわかった。ただ、週2回以上運動している割合で見ると国を上回る状況となっている。また、スポーツ実施率を年代別に見ると、平均を上回っているのは60代と70代のみであり、若い世代の実施率が低い状況にある。

これらの現状を踏まえて、これからの5年間で達成したい目標を整理した。ここでの目標とは、第3期の計画が終了した時点での理想とする宗像市の将来像を掲げているもので、目標値ではない。目標としては、①自分の健康状態に適した運動・スポーツに取り組める②市民が地区ごとに自宅から歩けるウォーキングコースを知っている③健康意識が高まり、新たに運動を始める人が増えている、この3つを掲げていきたい。頭に「◆」の記号がついている目標については、この後に出てくる目標に関連するものになるため、記号を付けている。

#### 【2. 生きがいづくり】

生きがいづくりについては、運動・スポーツに対するニーズが世代・性別によって異なる現状がある。市民アンケートの分析結果によると、種目のニーズや運動を行う理由では、世帯・性別によってニーズが異なることがわかった。もっと運動を行う（始める）ための条件では、10～50代と60代以上とで、ニーズの傾向が異なることがわかった。さらに、団体加入率では、年代の高い方が低い方に比べて加入率が高い状況にある。

これらの現状を踏まえて、5年後に達成したい目標としては、①誰もが気軽に運動やスポーツに取り組める②運動やスポーツの体験→練習→仲間づくりができる③運動やスポーツを継続する人のために、その目標となる成果発表の場がある④市民のニーズに合ったプログラムが提供されている⑤障がいの有無にかかわらずスポーツに親しむことができる⑥運動やスポーツの継続年数にかかわらず、運動・スポーツを通じて楽しさや喜びを実感し続けることができる、この6つを掲げていきたい。

### 【3. 子どものスポーツ】

現状として、肥満・痩身傾向児が増加傾向にある。また、小学5年生と中学2年生を比較すると運動の実施率、運動が好きと回答したものは減少しており、年齢が上がるにつれて子どもの体力やスポーツへの関心が低下している状況にある。また、子どものスポーツと関連する項目として、市民アンケートの分析結果から、運動を始めるきっかけづくりに重要なことは、幼児期から外で遊ぶことの習慣化と回答した割合が60%を超えている。さらに、習い事を始めるうえで重視することとしては、金額、回数、時間帯、距離に関する部分が重要視されていることがわかった。

これらの現状を踏まえて、5年後に達成したい目標としては、①幼児期から様々なスポーツを体験できる②子どもがトップスポーツ選手と交流できる③すべての中学生が取り組みたいスポーツを行うことができる④学校以外の場でも取り組みたいスポーツに取り組むことができる、この4つを掲げていきたい。

### 【4. スポーツ環境の整備】

現状のスポーツ環境に満足できていないという声が多く上がっている。市民アンケートの結果から、市内でスポーツをおこなう環境に対する満足度は、「する」「学ぶ」「観る」環境のいずれも約25%以下と非常に低い状況であり、不満な理由としては、施設が近くにない、情報不足、設備不足などの意見があった。日頃スポーツを行っている場所は、最寄りの億円や道路等が最も多く、過去2年間で使用した施設では、ユリックスが約30%を占めている。また、施設を利用しない（したことない）理由やスポーツ施設にとって重要なことの回答結果からは、身近に気軽に行える環境が求められていることがうかがえる。さらに、スポーツの観戦頻度として、直近1年間で市内観戦を行ったことがある人の割合は6%と非常に少ない状況にあることがわかった。

これらの現状を踏まえて、5年後に達成したい目標としては、①それぞれの取り組みにおいて適した指導者がいる②相談できる環境が整っており、市民がそれを知っている③市民がスポーツできる場が確保されている④地域スポーツの課題が明らかになり、スポーツ推進委員と連携して

それらに取り組んでいる⑤スポーツ施設に関する計画に基づく施設の集約・複合化や既存施設の有効活用等が着実に実行されている⑥市民が施設にアクセスしやすくなる対策が研究されている⑦世代や地域を越えて交流できる場がある⑧市民が市内でスポーツ観戦をしている⑨「★」を推進する基盤体制がスポーツ協会にある、この9つを掲げていきたい。

#### 【5. 情報発信】

現状として、関連団体や取り組み内容の認知度が低く、また、運動・スポーツに関する情報が少ないと感じている人が多くいる。関連団体の認知度では、知っていると回答した割合が6団体中3団体で25%以下という結果となっている。備品貸出サービスの認知度では、知らないと回答した割合が86.3%もいることがわかった。その他にも、様々な項目において、情報不足との回答がなされている状況にある。運動・スポーツに関して欲しい情報としては、市外のイベント情報のみが10%以下であり、身近な情報を欲していることがうかがえる。情報収集の方法では、市広報紙が最も多く、受動的な情報を望んでいることが示唆される。

これらの現状を踏まえて、5年後に達成したい目標としては、①市民が、施設でできること、施設の使い方やルール、借りることができる道具や備品を知っている②毎年、市広報紙で運動やスポーツの体験→教室（練習）→仲間づくり→成果発表の場（→観戦（見学））が情報発信されている③「◆」の情報が発信されている④情報発信（蓄積）サイトが充実している⑤発信した情報が市民のもとへ確実に届いている⑥宗像市のイベントが市外の人にも興味を持ってもらえている、この6つを掲げていきたい。

#### 【6. 地域スポーツ資源の活用】

この項目については、現在の第2期計画の中で取り組んでいる事業のうち、第3期でも引き続き取り組みを続けていきたい項目についてピックアップしたものであり、資料には、第2期計画の施策の柱を載せている。

取り組みを続けていきたい項目は、海洋性スポーツの展開、ラグビータウン関連事業の展開、プリンセス駅伝関連事業の展開、地域資源活用関連事業の展開、ホストタウン交流事業の展開の5つである。

これらの5年後に達成したい目標としては、①毎年、子どもたちに海に親しむ機会が提供されている②プリンセス駅伝が継続されるよう支援をおこなっている③ホストタウン交流による子どもの異文化交流ができていく④世代ごとのラグビーを通じた交流やラグビーの試合、観戦の提供が行われている⑤市内の民間スポーツ施設等のスポーツ資源が有効に活用されている、この5つを掲げていきたい。

説明は以上となる。なお、今後は、この6つの項目をベースに施策の柱等を組み立てていきたいと考えている。

大塚課長： 末永委員へのお礼になるが、委員の皆様にも配布しているとおり、末永委員のご厚

意により、市民アンケートの分析結果を共有いただいた。難しい部分もあったが、とても参考になるデータであると感じた。文化スポーツ課としては、この結果を基に、現状、課題、目標にこのエッセンスを盛り込んだつもりである。盛り込めていない部分や末永委員から補足の説明等があればぜひいただければと思っているところであるが、まずはこの場を借りてお礼申し上げる。

市丸会長： まず、事務局からの説明について質問等を伺った後に、末永委員より補足等を説明いただくこととする。

では、質問を一項目ずつ確認していく。まず、「1. 健康づくり」に関して質問等はないか。

大賀委員： 「次の5年間で達成すること」について、「◆」と「★」の項目があるが、この違いは何か。

福本： 頭に「◆」が付いている目標に関しては、「5. 情報発信」の目標に関連する。その項目の一つに、「◆」の情報が発信される」という目標があるかと思うが、その「◆」が指すものが、頭に「◆」が付いている目標のことである。同様に、頭に「★」が付いている目標については、「4. スポーツ環境の整備」の目標に関連する。

市丸会長： その他に質問等はないか。

末永委員： 先ほどの質問に関連するが、この構成は、項目が先にあり、その後に達成したいことがある。この構成だと、達成したいことがバラバラになっているように見えるため、例えば、「◆」の目標をまとめて、その項目のタイトルを考えるとというように、逆に組み立てる方が良いと感じる。そうすると、「◆」や「★」の項目もまとまって見やすい。

市丸会長： 今の説明は「◆」と「★」と「・」に項目をわけるというイメージで良いか。

末永委員： おっしゃるとおり。

上田係長： 本日は、アンケートの分析結果を取りまとめたものを見ていただく段階である。今回の審議会が終わり次第、次の段階として、この資料を基に、計画の本文となるよう文章化し、皆様に審議いただく予定である。その中では、ご指摘のとおり、重複している部分については、頭に説明を加えてわかりやすいようにしていきたい。

市丸会長： 再度確認だが、「◆」はどのような内容か。

上田係長： 「◆」の目標には、情報発信をしていくものが含まれている。

市丸会長： 「★」は、どのような内容か。

上田係長： 「★」の目標は、その推進とともにそれを推進する基盤体制がスポーツ協会にあるというものが含まれている。

市丸会長： 「・」はどのような内容か。

上田係長： 「・」の目標は、その施策を推進していく。

市丸会長： その他に質問等はないか。

末永委員： 5年間の目標を掲げているが、5年後、この目標に対して実際はどうだったのかという確認をする必要がある。その確認はどのように行う予定か。

上田係長： 次の審議会で、それぞれの目標に対する数値目標の案をご提示させていただく予定である。

末永委員： その数値の出し方はどのように行うのか。

上田係長： 例えば、目標に対して、アンケートのどの項目をどの数値まで上げるといような形で目標値を設定していく予定であり、その設定する数値に関しても、きちんと説明できる数値を考えていく。

末永委員： その方法であると、5年後に同じ人を対象にアンケートを取らないと、正確な数値は取れない。その辺りについて、どのように数値を取っていくのかを知りたい。

上田係長： 数値をどのように計測していくかについては、まだ整理ができていない。

市丸会長： 同じ人にアンケートを出すことは可能なのか。

上田係長： その方が市内に住み続けていれば、不可能なことではない。



市丸会長： 誰が回答したかは把握できているのか。

上田係長： アンケートを出した人は把握できているが、誰から回答をもらったのかは把握できていない。

市丸会長： 事務局の考えとしては、別の人に出す予定だったのではないか。

上田係長： おっしゃるとおり。末永委員からの意見を聞くまでは、同じ人からの回答にこだわらず、一定の回答率があれば良いと考えていた。

末永委員： そこは縦と横のどちらを捉えるかという違いであり、どちらの捉え方でも間違っていない。

市丸会長： 個人的には縦の方が簡単で良いと考える。末永委員としては、横の方が良いと考えるか。

末永委員： これまでの立場上、同じ人を追いかけるという分析ばかりをしてきたため、横の手法が個人的にはスタンダードな方法であった。こちらの方が正確な数値が取れる。ただし、難易度は高い。

市丸会長： 横の方が正確な数値が取れることは確かだが、現実的に考えて、縦の手法で良いと考える。

村山委員： 全項目に共通することだが、回答者の人数が毎年違う中で%を出して比較することに違和感がある。回答者すべてで計算するのではなく、%を出すときは、その分母を毎年、同じ数にしないで良いのか。分母の差によって信憑性が変わるのではないか。

市丸会長： アンケートの配布は、年代別に同じ数ずつ配っているのではないか。

村山委員： 年代によって、配布数は違っている。

市丸会長： これは、絶対数の違いによって差をつけているのか。

上田係長： 10代であると、今回の対象は18歳と19歳のみであるため、少なくしている。また、60代以上については、10歳ずつでの区切りをしていないため、数を増やしている。

村山委員： 平成 30 年も同じ数ずつ配布しているのか。

上田係長： 平成 30 年とは異なる。

市丸会長： 個人的には、%を出す際の分母の数のずれについては仕方ないと思う。

村山委員： 回答者数の違いは仕方ないが、世代ごとのアンケートの配布数は、次回も同じである必要があると考える。

市丸会長： 私も同じ考えである。

市丸会長： その他に質問等はないか。では、次に移る。「2. 生きがいづくり」の項目について、質問等はないか。

市丸会長： ないようなので、次に移る。「3. 子どものスポーツ」の項目について、質問等はないか。

大賀委員： 子ども痩身、肥満傾向児のデータと運動頻度のデータはどこからの情報か。

福本： 痩身、肥満傾向児については、学校保健統計調査のデータであり、運動頻度については、学校が行っている学校アンケートのデータである。

市丸会長： 学校が数値を出すのか。

上田係長： 学校保健統計調査の詳細については把握できていないが、公的な調査である。

大賀委員： 宗像市ではないのか。

上田係長： 宗像市のデータである。

河野委員： 毎年測定している身体測定の数値が吸い上げられたものであると考えられる。

上田係長： 文化スポーツ課としては、結果のデータを教育委員会からもらっている。

市丸会長： おそらく、BMIからこの数値を算出しているのではないかと考える。この数値を学校が出しているのか、どこかの機関が身体測定の数値から計算しているのかはわからない。

河野委員： 学校保健委員会のなかで、養護教諭が肥満度を算出して報告している。

市丸会長： この数値だとたいしたことないようにも感じる。BMIの数値が25～30であると肥満（1度）とされるが、基準を25にするか30にするかによって違ってくる。どの数値を基準にしているのか、また、純粹に大人の計算式に当てはめて計算されているのかという点が気になるところではある。

西村委員： 例えば、肥満傾向児の数値はBMIから算出しているなど、注釈として、その数値が何のデータから導き出されたものかを示した方が良い。そうでないと、最後の結論と数値が結びつかないところがある。

市丸会長： 統計的に見た場合、この程度の数値の変化では、有意差なしと出るため、増減の変化があったとは言えない。

大賀委員： 「習い事を始めるうえで重視すること」について、アンケートの設問では、「あなた自身や子どもが習い事を始めるうえで…」という内容になっているが、この項目を子どものスポーツの項目に含めても良いのか。

上田係長： 幼児期から外で遊ぶことの習慣化が大事という点については、共通して言えると考えられる。

大賀委員： 話している項目が一つずれていると思われる。5年間で達成することについては、子どものスポーツを高めるという目標に対しての小目標というイメージで良いか。

上田係長： おっしゃるとおり。

大賀委員： 「子どもがトップスポーツ選手と交流できる」という目標は何かデータはあるのか。

上田係長： データよりも、学校アンケートの結果から、運動が好きと回答した割合が減っている。文化スポーツ課としては、運動が好きと思う子どもを増やしたいと考えている。そのために

は、運動に関心を持ってもらう必要がある。その一つの方法として、トップスポーツ選手と交流できる場が大切だと考える。

末永委員： 子どもの運動嫌いは、体育の授業が影響していると考え。子どもに運動が嫌いな理由を聞くと、体育の授業が嫌いとの回答がある。

日本では、運動、スポーツという言葉を使っているが、なぜ授業になると体育という言葉を使うのか、疑問に思う。スポーツの授業や身体活動の遊びの授業でも良いのではないかと思う。遊びとなると子どもも楽しく取り組むことができ、その結果、年齢が上がってもスポーツに興味があったり、スポーツの実践に繋がっていくのではないかと考える。

体育の授業改革のような項目は入れられないのか。

大塚課長： 小学校に体育の教員を配置するといったような内容を書くことはなかなか難しい。

末永委員： 体育の教員ではなく、感覚的には遊びの先生。公園で遊べない、帰り道に道草を食うと怒られるような時代であるため、屋外での遊び方を知らないのではないかと思う。そのため、授業で遊びを教える必要があると考える。

上田係長： 教育に関する内容をここに含むことは難しい。

末永委員： 学校以外の場面となると子どものスポーツに関する範囲が狭まってくる。家庭での時間を考えると、平日は習い事などもあり、現実的には休日くらいである。なので、難しいことは承知の上で、なんとか入れることができないかと思い発言した。

河野委員： 学校側でもある立場として、体育の授業の改善もしていけないと感じている。

アンケートの中で、中学2年生は小学5年生と比較して、運動の実施率などが減少しているとされているが、年齢が上がるにつれて、やることも増え、制限される時間は増える。そのため、この数値をもって減少していると評価され、課題と捉えられることは、子ども達にとっては厳しい評価であると感じる。

市の課題を見るためだけの資料であれば良く理解できるが、この課題をどう解決するかと考えたときに、幼児であれば自分だけでは行動できないし、子どもにおいても、最近は安全の問題上、子どもだけで遊ぶことも難しい。このような周りの環境整備も含めて、この課題に対する解決策を考えていけると解決できないものが多くあると感じている。

市丸委員： コロナの影響はないのか。

村山委員： 大いにあると考える。コロナの期間は、体育の授業でも、声を出してはいけなかったり、友達に触れてはいけなかったりと制限が多くあった。そのため、体育が楽しくないと感じた子どもが多かったのではないかと考えられる。コロナの影響がない次回のアンケートの結果が注目であると思う。

市丸会長： その他に質問等はないか。では、次に移る。「4. スポーツ環境の整備」の項目について、質問等はないか。

大賀委員： 目標に、「★」を推進する体制がスポーツ協会にある」とあるが、スポーツサポートセンターは出てきていない。含めなくて良いか。

上田係長： 固有名詞は出していないが、2つ目の目標にある「相談できる環境」という部分に含まれている。

西村委員： 目標にある、「施設にアクセスしやすくなる対策の研究」については、どのように評価するのか。

上田係長： 市民アンケートでは、身近にスポーツ施設が欲しいという意見が一番多かったが、こちらの改善は難しい。改善できることとしては、施設にアクセスしやすくなる環境の整備だと考える。しかし、こちらにも公共交通機関等の相手方との調整が必要になるため、簡単には改善できないと認識している。そのなかでも、市民が施設にアクセスしやすくなるための何かしらの対策が講じられるよう、まずはその研究を始めていきたいと考えている。

末永委員： 身近とは感覚的にはどのくらいの距離か。

上田係長： 歩ける距離だと2km圏内、自動車だと15分圏内と考えているが、市民の皆さんが果たしてこれを身近と感じるのかという疑問もあるため、この部分に関しても研究が必要であると考えます。

市丸会長： その他に質問等はないか。

## 9 その他

市丸会長： 報告等はないか。未永委員がまとめられた資料についても質問はないか。なければ、事務局より次回の日程調整をお願いする。

(委員の日程を確認)

結果： 8月28日(水) 18:00～ 103会議室

10 閉会

市丸会長： 以上をもって、第1回宗像市スポーツ推進審議会を閉会する。

令和6年 8月28日

署名 釜瀬 計

署名 大賀 龍夫